

第32号 (2012-3) 2013年2月1日

大学評価学会通信

目 次

◆ 第10回大会ご案内	1
◆ 研究会報告	2
◆ 理事会報告	3
◆ 学会日誌 他	6

第10回全国大会を龍谷大学で開催します

大学評価学会事務局

大学評価学会第10回全国大会は、2013年3月9日（土）、10日（日）の2日間、龍谷大学（深草学舎）で開催されます。今大会のテーマは、「大学評価と大学経営－学生・教員・事務職員・法人のDevelopment－」であり、このテーマで初日（9日）午後にシンポジウムが開催されます。

シンポジウムでは山本健慈会員（和歌山大学学長）が「一地方国立大学長からみた（日本の）高等教育政策、経営、教育実践の今日的課題」のテーマで基調報告をします。続いて、重本直利氏（龍谷大学）と田中秀佳氏（名古屋大学大学院）がそれぞれ、「大学マネジメントの貧困からいかに抜け出すか－評価活動を大学経営の『質保証』につなげる－」、「院生・若年研究者のキャリア形成と大学経営」のテーマで報告し、参加者で議論を深めます。

今年の全国大会の特徴は、分科会が5つとなったことと、会員報告分科会（第1分科会）が2会場、6報告となったことで、多数の報告が予定されていることです。また、分科会のテーマも幅広い内容となっています。大会の詳しい内容については、同封の大会プログラムをご覧ください。

多数の会員のみならず、第10回全国大会にご参加されますよう呼びかけます。

主催校挨拶

大会実行委員長 龍谷大学 細川孝

大学評価学会第10回全国大会を龍谷大学（深草学舎）で開催させていただくこととなりました。2007年3月に大宮学舎で第4回全国大会を開催して以来の龍谷大学での開催です。私的なことを記させていただければ、当時のわたしはメンタル面の理由で体調を崩しており、学会の運営にはほとんど貢献できませんでした。6年後、全国大会の準備に取り組めることに少なからず喜びを感じています。それは、「10年間は続けるように」とおっしゃった故田中昌人さん（初代の学会代表のお一人）との約束を達成できる喜びでもあります。

さて、同封の大会プログラムにありますように、第10回大会は本学会にとって新しい境地を開く内容となっていると感じています。昨年3月に事務局長に選出された渡部昭男会員の精力的な働きかけがあったからこそと受け止めています。そして、わたし自身、事務局の一員として長く学会運営に携わるもとの、マンネリ化をもたらしていたことを反省しています。

2年前の第8回全国大会は、京都橘大学での開催でした（2011年3月12日、13日）。その前日には、東日本大震災が起これ、大会の運営も少なからず影響を受けました。この2年間は、脱原発の運動が高まる一方で、2012年12月の総選挙で新しい政権が発足するなど、さまざまな出来事がありました。日本の大学にとっても激動の時期であったように思います。

大学は社会と切り離されて存在するのではなく、社会の中に存在しています。性急な形で制度化された「大学評価」－それは、日本的な特質をもったものでもあります－によって、日本の大学は翻弄されつつあるように思います。そのようなもとで、「もう一つの大学評価」という理念を掲げて、2004年3月に設立された本学会は貴重な役割を果たしてきたと考えています。2010年代の中盤、そして後半における日本の大学評価にとって、本大会の議論が稔りあるものとなるようにと願っています。会員のみなさまのご協力を心からお願いする次第です。

〈第10回全国大会に関する事務局からのご連絡〉

会員のみなさまに大会プログラム各3部を同封しております。ご関心の方に、お渡しいただきますようお願いいたします。余部が必要な場合には事務局までご連絡くだされば、お送りさせていただきます。また、あわせて、この機会に大学評価学会への入会を呼びかけていただけますと幸いです。

第39回 研究会を開催しました

2012年11月10日（土）午後、東洋大学（白山キャンパス）において第39回研究会を開催しました。この研究会の前半は、曾根健吾氏（東洋大学学生）による「学生の主体性あふれる大学をめざして－大学間連携による学生FD活動の意義と課題を中心に－」と題した報告でした。曾根氏は、近年盛んになっている「学生（参画型）FD」について、氏が参加される関東圏FD学生連絡会の取り組みを中心に報告されました。

後半は、「『公教育の無償性を実現する』の成果と課題」のテーマでのミニセッションでした。

『公教育の無償性を実現する』は世取山洋介・福祉国家構想研究会編で大月書店から刊行された著書のタイトルであり、同書に執筆された石井拓児氏（愛知教育大学）と田中秀佳氏（名古屋大学大学院）がそれぞれ、「子ども・子育て費用ならびに教育費の私費・公費概念の日本の特質」、「戦後日本の教育費運動と教育財政統制」のテーマで報告されました。

いずれの報告も大変興味深いものであり、研究会だけでなく研究会終了後の懇親会を含め、活発な議論が行われました。本研究会は、龍谷大学社会科学研究所（大学評価・大学経営研究センター）2012年度第3回研究会との共催で開催されました。

最後になりましたが、（懇親会を含め）開催にあたってご尽力いただいた紀葉子会員（東洋大学）に感謝申し上げます。

（文責：細川孝）

理 事 会 報 告

第Ⅴ期第2回理事会

- ・ 日 時：2012年9月2日（日）10:00～12:05
- ・ 場 所：キャンパスプラザ京都 龍谷大学サテライト教室
- ・ 出 席：理事8名、委任状理事9名、欠席理事3名（なお、出席幹事4名）

【報告事項】

1. 『現代社会と大学評価』第7号、第8号の編集について
事務局から、年報、第7号の編集状況について、最終校正を終え近日中に納品予定である旨の報告があった。編集委員会から、年報、第8号の編集状況について報告があった。
2. シリーズ本、第6巻の編集について
担当の津田理事が校務で欠席のため、塩野理事、村上理事からシリーズ本、第6巻の編集状況について報告があった。2013年3月に開催される第10回全国大会までに刊行させることが確認された。
3. 第36～38回研究会について
事務局から、第36回研究会（6月9日）、第37回研究会（8月31日）、第38回研究会（9月1日）が開催されたことが報告された。研究会の概要の報告は、「学会通信」第31号（10月刊行予定）に掲載することが確認された。
4. 「学会通信」第30号について
事務局から、5月25日付で「学会通信」第30号が刊行されたことが報告された。
5. 事務局会議について
事務局から、6月9日に開催した事務局会議の議事について報告があった。
6. 財政報告
事務局から、2012年8月24日現在の財政状況について報告があった。

【審議事項】

1. 第Ⅴ期第1回理事会議事録（案）承認について
第Ⅴ期第1回理事会（2012年3月11日開催）議事録（案）を承認した。
2. 入退会の承認について
6名の加入を承認した。1名の退会を承認した。入退会承認後の会員数は、以下のとおりとなった。
210人、協力会員 8人（うち団体会員2）、計 218人（団体2を含む）
3年間会費未納にもとづく自然退会（学会規約の内規3.）の処理については、再度該当の会員に督促の上、次回理事会（2012年11月10日開催予定）に除籍処理を提案することを承認した。
3. 幹事の増員について
上中良子会員（京都橘大学）に幹事を委嘱することを承認した。

4. 第37回研究会（シンポジウム）に関する支出について
報告者のお一人である、韓国から招聘したアンジンゴル氏の出国手続きが遅れたため、龍谷大学（社会科学研究所）での支出手続きが間に合わず、学会財政から交通費（宿泊費を含む）・講演謝礼を支出することを承認（追認）した。
5. 第10回全国大会（2013年3月9日～10日、於：龍谷大学（深草学舎））について
（大会プログラムとして確定したため省略）
6. 理事・幹事の分担について
理事・幹事の分担について、以下のとおり承認した。
7. 第Ⅵ期（2015年3月～）に向けた検討課題について
第Ⅵ期理事会の選出に向けた若返りの準備、共同事務局体制の確立・定着、会員拡大などの課題を確認した。
8. 第39回研究会について
第39回研究会の概要を承認した。
9. シリーズ本の編集について（第6巻以降）
2013年3月に開催される第10回全国大会までに、事務職員評価をテーマとするものを含め2冊のシリーズ本を刊行させることを承認した。
10. 学会刊行物について
以下の2件について、事務局で案を検討し、第10回大会時に開催される会員総会において提案することを承認した。
 - ・『現代社会と大学評価』およびシリーズ本に関わる著作権ポリシー
 - ・『現代社会と大学評価』の国立情報学研究所CiNii(NII論文情報ナビゲータ)への登録
11. 教育学関連学会連絡協議会（仮称）への参加について
教育学関連学会連絡協議会（仮称）への参加を承認した。
12. 第11回全国大会（2014年3月）の開催校について
次回理事会で継続審議することを承認した。

以上

第Ⅴ期第3回理事会

- ・日 時：2012年11月10日（土）10:30～12:15
- ・場 所：東洋大学（白山キャンパス）2号館6階会議室C
- ・出 席：理事7名、委任状理事10名、欠席理事3名（なお、出席幹事6名）

【報告事項】

1. 『現代社会と大学評価』第7号の刊行と第8号の編集について
事務局から、年報、第7号を10月20日付で刊行し、「学会通信」第31号、第5期のリーフレットとともに会員宛に送付した旨の報告があった。あわせて、第7号に関して、編集過程で重大な校正ミスが生

じ、印刷会社が刷り直しをすることになった；これについて追加の負担（60,000円+消費税）が生じ、理事会MLで承認を得て支払いを行った（支払額は、467,040円（税込））ことが報告された。

年報、第8号に関しては、編集体制の確認が必要である（＝（第8号ではなく）第9号から編集事務局の体制を移行する）との指摘があり、事務局で対応することが確認された。

2. シリーズ本、第6巻、第7巻の編集について

事務局から、現在、「事務職員評価」と「無償化」の2つの巻が準備されていることが報告された。第6号を「無償化」、第7号を「事務職員評価」をテーマとして予定されていることが確認された。

3. 「学会通信」第31号について

事務局から、10月20日付で「学会通信」第31号を発行し、会員宛に送付したことが報告された。

4. 第Ⅴ期のリーフレットについて

事務局から、第Ⅴ期のリーフレットを2,000部印刷し、会員には3部ずつ送付したことが報告された。

5. 財政報告

事務局から、2012年10月31現在の財政状況について報告があった。

【審議事項】

1. 第Ⅴ期第2回議事録（案）承認について

第Ⅴ期第2回理事会（2012年9月2日開催）議事録（案）を承認した。

2. 会員の異動について

2名の加入を承認した。1名の退会を承認した。3名の除籍を承認した。入退会等承認後の会員数は、以下のとおりとなった。

会員 208人、協力会員 8人（うち団体会員2）、計 216人（団体2を含む）。

3. 第10回全国大会（2013年3月9日～10日、於：龍谷大学（深草学舎））について （大会プログラムとして確定したため省略）

4. 学会ウェブサイトの運用ルールについて

会員からウェブサイトに情報の掲載について依頼があった場合には、以下の手続きに従って、その適否を判断することが承認された。

- ・本学会の会員が関わる催しであること。
- ・本学会の目的に関係する催しであること。
- ・事務局（事務局長、事務局担当幹事、ウェブサイト担当幹事）の合議で判断する。

5. 教育学関連学会連絡協議会（仮称）について

10月8日に開催された結成準備会の議論を踏まえ、引き続き議論していくことが承認された。本学会としては、蔵原理事が協議会の担当者とする事が承認された。

6. 第11回全国大会（2014年3月）の開催校について（継続審議）

山梨大学（担当：日永理事）に開催校をお願いすることを承認した。

7. 学会刊行物について

以下の2件について、教育行政学会ならびに教育経営学会の規程を参考にして事務局で原案を作成することを承認した。

- ・『現代社会と大学評価』およびシリーズ本に関わる著作権ポリシー
- ・『現代社会と大学評価』の国立情報学研究所CiNii(NII論文情報ナビゲータ)への登録

以上

寄贈図書

以下の文献を、出版社より大学評価学会に寄贈いただきました。いずれも書評の依頼を受けておりますので、『現代社会と大学評価』において紹介させていただきます。

小林雅之編著『教育機会均等への挑戦—授業料と奨学金の8カ国比較』東信堂、2012年
高野篤子『アメリカ大学管理運営職の養成』東信堂、2012年
服部健児『フランスCNEによる大学評価の研究』大阪大学出版会、2012年

【大学評価学会の日誌】

2012年11月10日（土） 第39回研究会、第V期第3回理事会（東洋大学）

12月 6日（木） 事務局会議（京都市内）

<予定>

2013年3月上旬 会計監査

3月9日（土）、10日（日） 第10回全国大会（於：龍谷大学）

3月9日（土） 第V期第4回理事会、第10回総会（ ” ）

3月10日（日） 第V期第5回理事会（ ” ）

編集・発行：大学評価学会

〈学会事務局〉 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学
発達科学部 渡部昭男研究室
e-mail:akiowntnb@port.kobe-u.ac.jp

〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学
経営学部 細川孝研究室
Tel/Fax：075(645)8634（細川）
e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
URL：<http://www.unive.jp/>

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会
